

氏名	後 藤 精 俊
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	甲 第 611 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和61年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科外科系外科学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学 位 論 文 題 目	Interleukin-2 による胃癌組織浸潤リンパ球の cytotoxicity の増強
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋 教授 栗井通泰 教授 木村郁郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Interleukin-2 (IL-2) の添加培養により, 胃癌組織浸潤リンパ球 (TIL) の微弱な cytotoxicity が増強された。ことに胃癌培養株である MKN28 に対する cytotoxicity の増強効果は末梢血リンパ球よりも TIL に於いて顕著であった。IL-2 の添加培養により TIL のリンパ球サブセットは OKT 8, Leu 7 陽性細胞の比率が増加した。

胃癌腹水リンパ球も IL-2 の添加培養により cytotoxicity が増強し, 自家癌細胞障害性も誘導された。胃癌腹水リンパ球のサブセットも同様に OKT 8, Leu 7 陽性細胞の比率が増加した。OK 432, PSK の胃癌局所投与により, MKN 28 に対して高い cytotoxicity を持った TIL の症例が出現した。

TIL のリンパ球サブセットについてみると, OK 432 の局所投与群では OKT 8, Leu 7 陽性細胞の比率が増加したが, PSK の局所投与群では対照群(非投与群)と有意差は無かった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は, Interleukin-2 によって, 進行胃癌症例における胃癌組織浸潤リンパ球の cytotoxicity を増強する目的をもって in vitro 実験により検討したものであって, その効果および作用機序に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。